



すぎ七

杉並区立杉並第七小学校

校長 畝尾 宏明

TEL 3392-6328

FAX 3393-7536

令和6年1月9日 No. 553

「考える」ということ

校長 畝尾 宏明

はじめに、能登半島地震で被害に会われた皆様のご冥福とお悔やみを申し上げます。また、被災されている方々の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

今年は辰年です。十干十二支では甲辰（きのえ たつ）にあたります。甲は、十干の最初「命の始まり物事の始まり」を意味します。また辰は「陽の気が動き、草木がなびいて大きく成長し、形が整う」という意味があります。このことから「甲辰」はこれまでコツコツと蓄えられた学びが芽を出し、活力に満ちた草木のようにすくと伸びて、努力が花を咲かせるという意味になるそうです。

なんだか、学業にも通じるような気がしてきました。1学期・2学期と頑張ってきた学習が、3学期に実を結ぶ。そんな年になるとよいと思いつながら迎えたお正月でした。

さて、学業に通ずるという話から、今回は「考える」をテーマにしてみようと思います。学校の授業では、よく「～について考えよう」とか「～について考えてみてください」という言葉が聞かれます。しかし、「考える」とは何でしょうか？

「考える」と聞いて私がいつもよく思い出すのが、ロダンの「考える人」の像です。私は、以前台東区に勤務しており、よく上野公園の西洋美術館わきを通りました。その時、ふと、こう思ったのです。

『この像の人は一体何を考えているのだろうか？』

その答えは、おそらく誰にも分からないと思います。なぜなら、その像が何も語らないからです。もし、仮に、考える人の像が「雲が低いからもうすぐ雨が降りそうだな」としゃべったとたら、私たちはこの人が天気のことを考えていたのだと分かりますし、雲の高さと降雨の関係を関連付けて考えていたのだと分かります。

つまり、思考とは、表現を伴うことで見える化するということです。ですから、学習指導要領で示されている育成を目指す資質・能力でも、「思考力・判断力・表現力等」と思考と表現が一体化さ

れて記載されています。

先日、お子さんが持ち帰った通知表の観点にも「思考・判断・表現」の項目があります。各教科の真ん中に記載されている項目です。例えば、6年生社会科の観点では「日本の政治や歴史、国際協力等について、考え、適切に判断し、表現している」と示されています。もし、ご家庭に2学期の通知表があるならば、一度ご確認ください。いずれも、思考と表現が一体化するような形で記載されているのではないかと思います。

また、この思考・判断・表現の力は児童の弱いところでもあります。先月にお伝えした令和5年度の学力調査の結果を見ても、「知識・技能」と「思考・判断・表現」とでは、いずれの調査でも、知識・技能の方が高ポイントを記録していることから分かります。

ですから、学校の授業では考えたことを表現する活動を重視します。

隣の友達と話し合ったり、グループで相談したり、挙手して自分の考えを発表したりする活動がそれにあたります。ノートやプリントに書くというのも表現です。自分の気が付いたことや考えたことを文字化する活動などはとても有効です。



【先生の問いに元気に答える児童たち】

甲辰の2024年、1・2学期の努力が花を咲かせるそんな3学期を期待します。そのためにも、子供の思考力を伸ばすための表現の場を大切にしていきます。今年も杉並第七小学校をどうぞよろしくお願いいたします。